

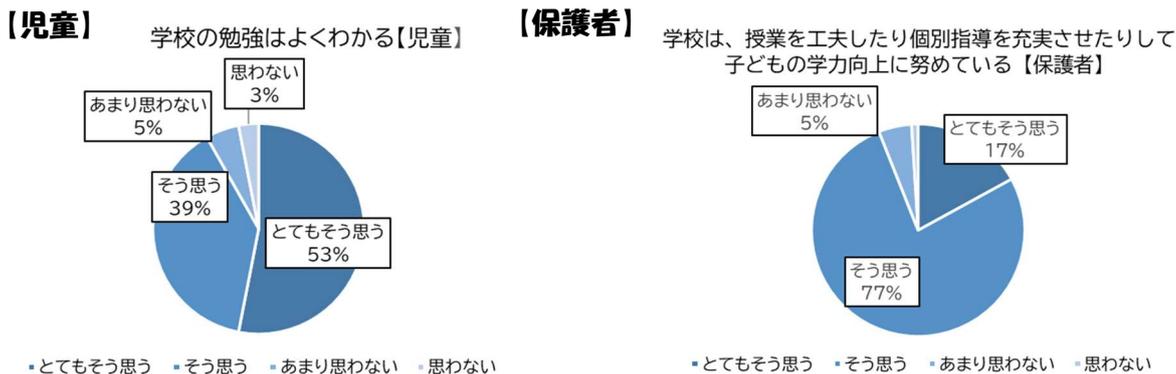
「夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成」をめざして由宇小学校 で取り組んでいくこと

**アンケート最終
回答率は
約64%でした。**

学校評価アンケートの結果から見えてきた実態や課題が、「夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成」をめざして学校と家庭、地域が一体となった取組を進めていくヒントとなります。今回、結果をもとにプロジェクトごとに取組や改善点をまとめました。無回答がある項目は、100%になっていません。

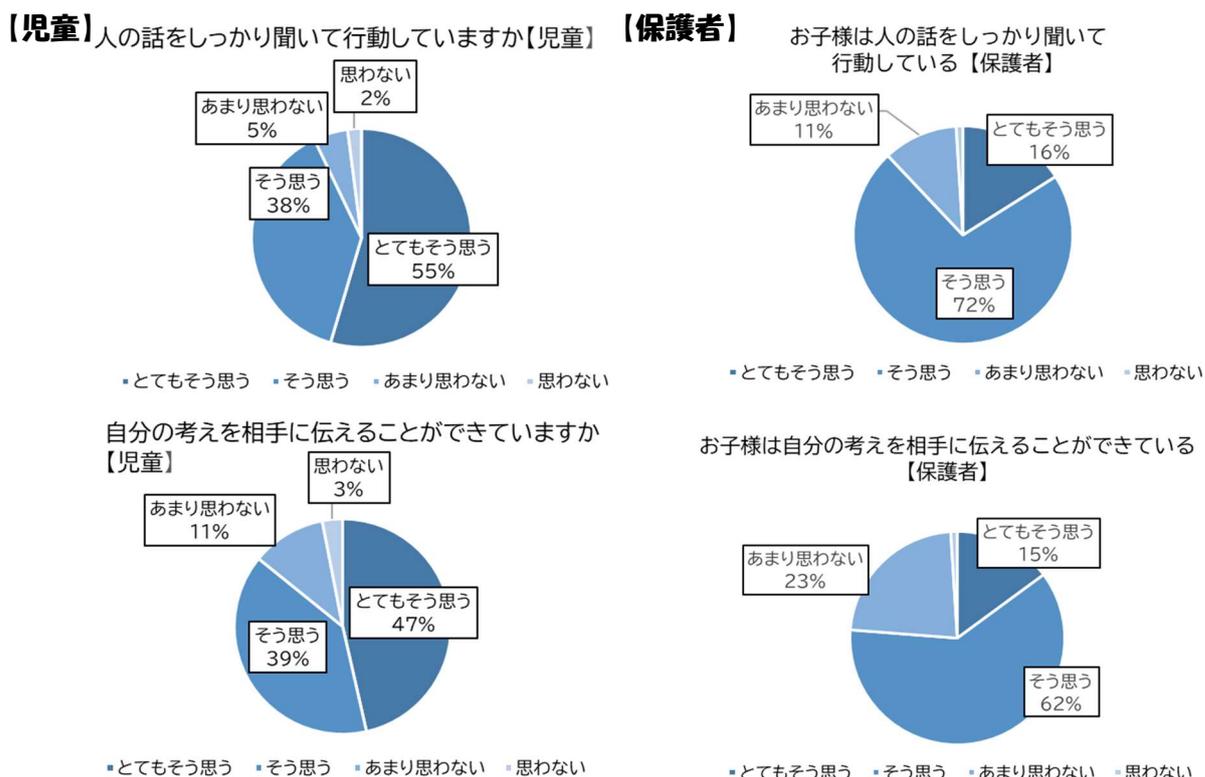
1 主体的な学びプロジェクトに関すること

わかる・できる→楽しい授業をめざして



現状 児童と保護者の質問項目の内容が異なるため、そのままの比較は難しいが、児童・保護者とも約9割は肯定的な回答となりました。教員の授業の工夫により、勉強の楽しさを味わうことができている児童の割合が多くなっています。

手立て 今後も「関わり合い」を授業の中に意図的に仕組み、「困り感に寄り添う支援」を通して、基礎的な学力の向上に努めていきます。また、ICT を積極的に活用して、個別指導にも生かしていきます。



現 状 結愛ネットの「基盤となる子ども像」に関する項目では、「人の話しっかり聞いて行動している」について、9割の児童と保護者が肯定的な回答となりました。「自分の考えを相手に伝えることができる」について、児童は8割以上が肯定的な回答をしています。一方で保護者は、「あまり思わない」の割合が多くなっていることから、「伝える力」について児童と保護者で意識のズレがあることが分かります。

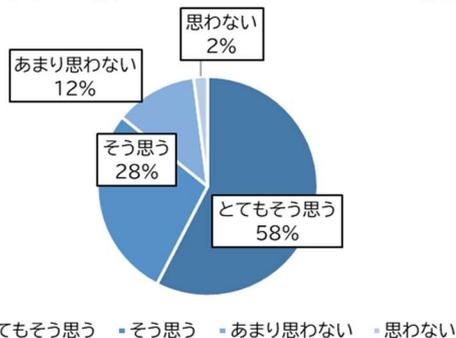
手立て 今後も、児童がしっかり人の話を聞いている場面を捉えて、褒めたり認めたりして価値づけることを全教職員で意識していきます。

2 豊かな心プロジェクトに関すること

思いやりのある学校を目指して

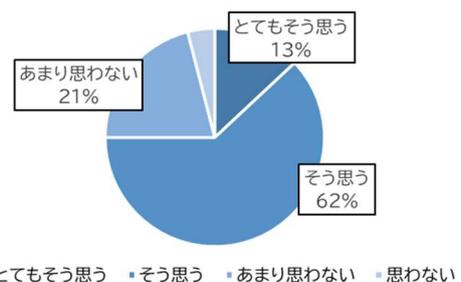
【児童】

家や学校で気持ちのよいあいさつをしている【児童】



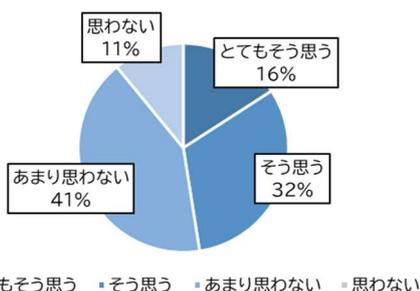
【保護者】

お子様は、家や学校で気持ちのよいあいさつをしている【保護者】



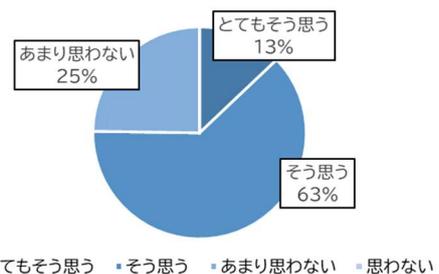
【教職員】

児童は、家や学校で気持ちのよいあいさつをしている【教職員】



【地域】

児童は、家や学校で気持ちのよいあいさつをしている【地域】

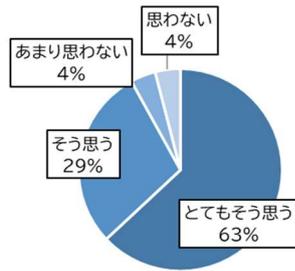


現 状 結愛ネットの「基盤となる子ども像」に関する項目では、「家や学校で気持ちのよいあいさつをしている」について、児童は肯定的な回答が8割以上になりました。家庭及び地域からは「あまり思わない」という回答が2割以上ありました。大人と子どもで望ましい挨拶像にズレがあるのではないかと考えられます。

手立て 代表委員会で挨拶の意義や相手に伝わる挨拶の仕方について考える機会を設けていきます。また、生活委員会の児童がこの結果を分析し、運営委員会の児童が挨拶の推進を目的とする集会を企画・運営していきます。

【児童】

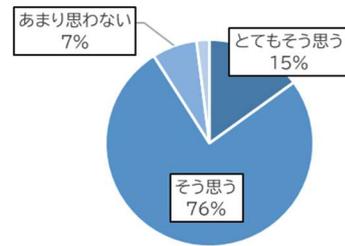
困ったときに相談できる人がいますか【児童】



・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

【保護者】

学校は、悩みや困ったことがあれば気軽に相談できる【保護者】

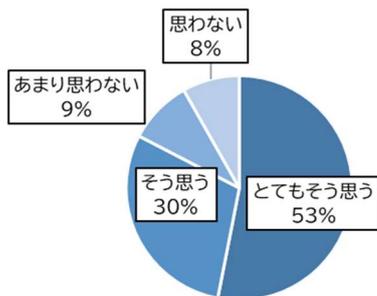


・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

現状 児童も保護者も9割以上が肯定的な回答をしています。しかし、「あまり思わない」という意見が1割近くあります。教育相談体制をさらに充実させていく必要を感じます。

手立て 児童に対してはタブレットでアンケートを行い、誰にも知られないような状況でアンケートに答えられるように努めていきます。また、保護者の方に対しては、相談いただいた際に誠実な態度で受け答えするとともに、懇談等で信頼関係を築くことができるよう努めていきます。

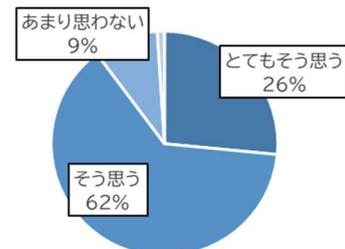
【児童】 ふれあい班活動は楽しい【児童】



・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

【保護者】

お子様は、集会活動やふれあい活動を楽しみにしています。保護者】



・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

現状 運営集会委員会が企画する全校集会は肯定的な回答が高くなりましたが、各学期に数回行うふれあい班遊びについては肯定的な回答が低いという結果になりました。班編成の偏りも原因があると考えられます。

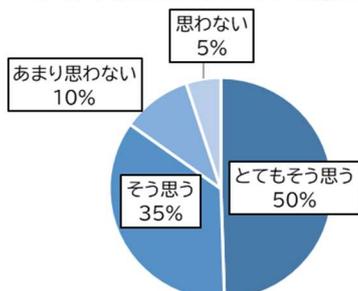
手立て 班編成については男女比や兄弟が一緒にならないようにする等の配慮ができるよう編成方法を検討していきます。全校集会はこれまで通り継続していくと同時に、ふれあい班遊びの方法について教職員間で、また代表委員会等で話し合う機会を設けて改善を図ります。

3 たくましい体プロジェクトに関すること

良い生活習慣の育成をめざしてメディアコントロール

【児童】

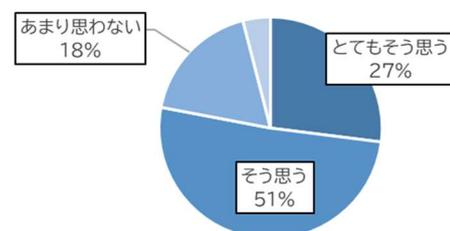
早起き早寝に取り組んでいる【児童】



・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

【保護者】

お子様は、早起き早寝に取り組んでいる【保護者】



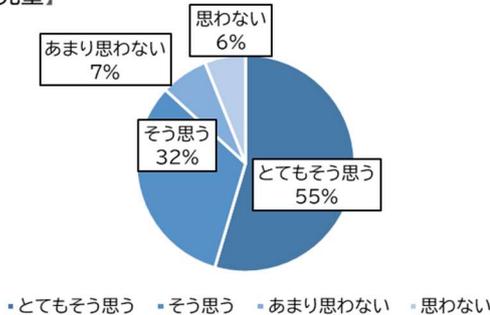
・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

現状 「早起き・早寝ができています」の項目では、児童・保護者とも肯定的な回答が8割となりました。早起き・早寝を意識した生活習慣が定着してきています。児童の中には、起こされていても「できています」と回答している場合もあり、児童と保護者との認識にはズレも見られました。

手立て 各学期の元気チャレンジ週間において、元気チャレンジカードを活用して啓発し、継続的な取組を推進していきます。

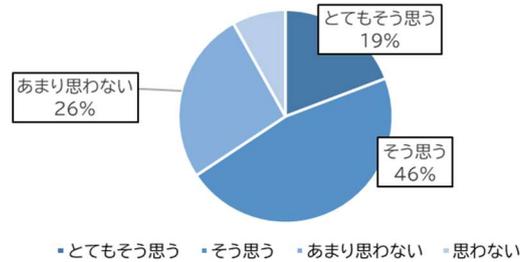
【児童】

タブレットのきまりを守り、メディアの約束を守っている【児童】



【保護者】

お子様は、家庭で決めたメディアの約束を守っている【保護者】

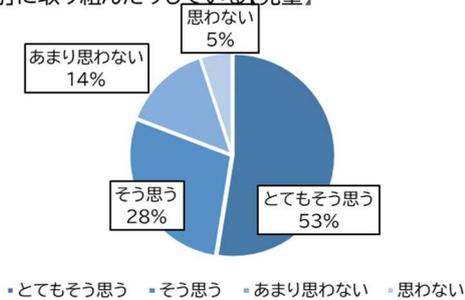


現状 児童の8割～9割が、きまり・約束を守っていると肯定的な回答しています。しかし、保護者の肯定的な回答は5割～6割にとどまっています。「できています」の中身や達成した姿等に児童・保護者の認識にズレが大きくなっています。

手立て 各学期の元気チャレンジ週間において、元気チャレンジカードを活用して啓発していきます。学校保健委員会を通じて、テレビの視聴時間等、家庭と連携しながら取り組みます。また学校で日頃からメディアの使い方等の情報モラル教育を充実させます。

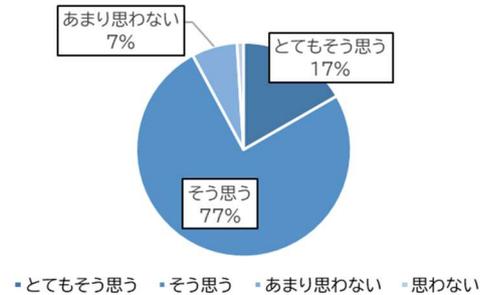
【児童】

休み時には元気に外で遊んだり、家では「おうちで運動」に取り組んだりしている【児童】



【保護者】

学校は、児童の体力向上に取り組んでいる（体育、外遊び）【保護者】



現状 児童は、8割が「外で遊んでいる・おうちで運動をしている」と回答しています。また、保護者も9割以上が肯定的な回答をしています。コロナ禍以前のように身体活動の制限なく遊んだり、運動したりする環境が整ったことが体力向上につながっていると考えられます。

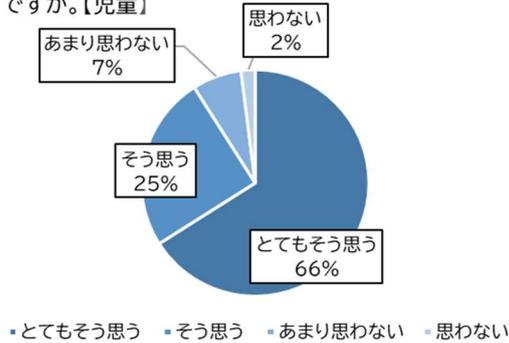
手立て 2学期以降、時間走記録会、なわとび集会、なわとび運動の取組等、体育科の授業や行事を中心に児童の啓発に努めていきます。

4 地域との連携プロジェクトに関すること

地域とのつながりを大切にした取組

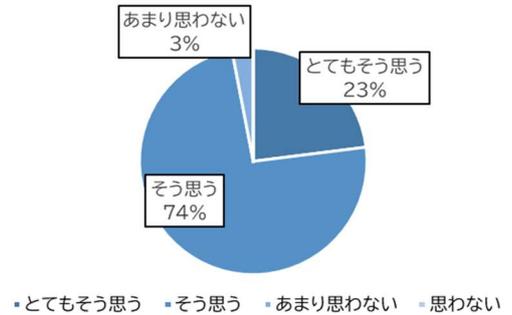
【児童】

地域の方と一緒に活動したり、勉強したりするのは楽しいですか。【児童】



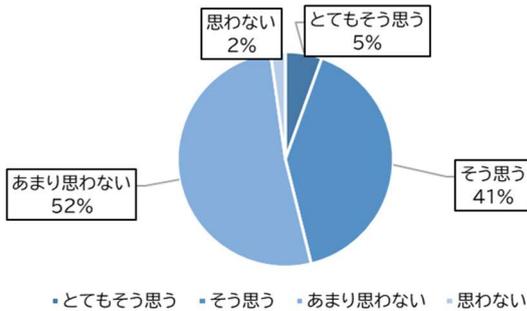
【保護者】

学校は、地域の人材を有効に活用している【保護者】



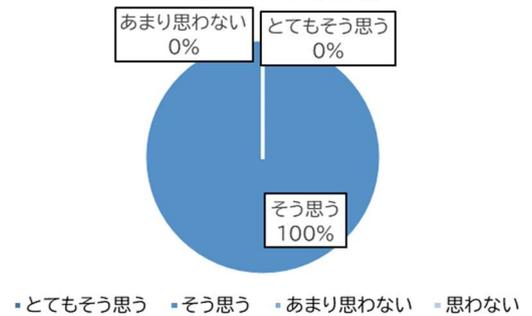
【教職員】

わたしは、結愛ネット等の地域資源の有効な活用を図った【教職員】



【地域】

学校は、地域資源（人・もの・こと・情報）を有効に活用している【地域】



現状

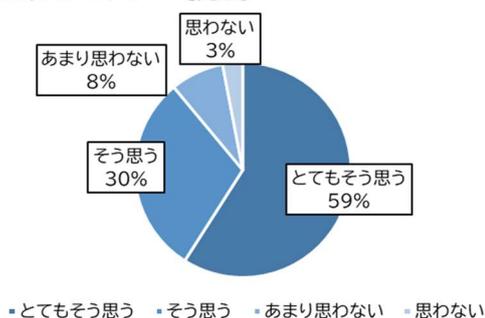
山口県では、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、社会総がかりで子ども達の学びや育ちを見守り、支援する取組を推進しています。本校の学校運営協議会や由宇町の「結愛ネット」を通じて、これまでも安全ボランティアやクラブ活動など、様々な方々に御協力いただいています。「地域とのつながり」についての項目では、児童、保護者・地域とも肯定的な回答が9割以上です。学校・家庭・地域・社会の連携協働体制が構築されていることが分かります。

手立て

コロナ禍により希薄化した人と人とのつながりや地域力の再構築に向けて、学校の教育活動においても新しい形を模索しながら取り組んでいます。今後も地域の教育資源を活用して、子どもたちと地域の方々がつながる機会を創出し、地域のよさや魅力を実感・再発見する取組を推進していきます。また、学習の成果や取組の様子についてホームページや学級・学年便りを通じて保護者の皆様、地域の皆様にも積極的に情報を発信していきます。

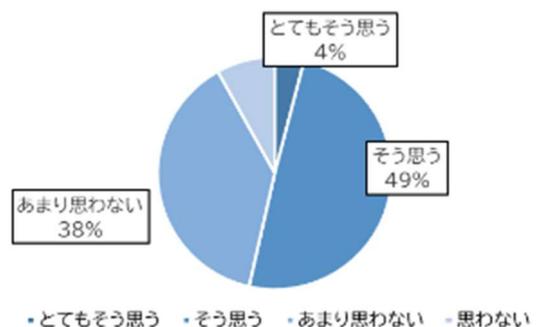
【児童】

由宇中学校や他の学校の友達、園児と一緒に勉強するのは楽しいですか 【児童】



【保護者】

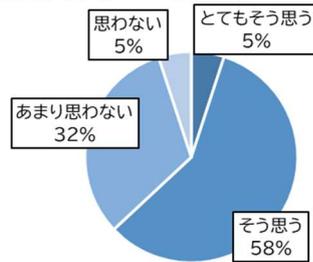
お子様は、地域の活動に参加している【保護者】



【教職員】

私は、由宇地域の小学校や中学校と連携した小中一貫教育に取り組んでいる

【教職員】

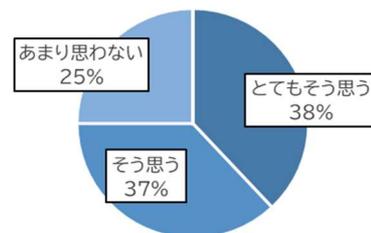


・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

【地域】

学校は、地域の小学校や中学校と連携した小中一貫教育に取り組んでいる

【地域】



・とてもそう思う ・そう思う ・あまり思わない ・思わない

現状 由宇地域の小・中一貫教育では、園小中が連携しながら継続的な教育活動を推進しています。「基盤となる子ども像」に向けて、知・徳・体の3領域で発達段階に応じた具体的な目標となる姿を設定し取り組んでいます。結果から保護者・地域とも「あまり思わない」が3割を超えています。一方で児童は、園小中での取組を「楽しい」と感じている回答が9割以上となりました。

手立て 1学期に由宇中学校区で共通した生活のきまりを作成しました。継続して取り組んで生活習慣の定着を図ります。2学期は1年生が3園との交流活動、6年生は中学校の先生による出前授業やクラスマッチへの参加等、校種間連携を推進して進学への不安の解消に努めます。また、教職員間での互見授業を積極的に実施し、授業力の向上に努め、小中連携して児童の学力向上を図ります。